



森村学園 初等部

〒226-0026 横浜市緑区長津田町2695
TEL.045-984-2509 FAX.045-984-6996
E-mail : shotobu@morimura.ed.jp
URL:<https://www.morimura.ed.jp>



森村学園初等部
HP



森村学園初等部
Instagram



森村学園 初等部

Morimura Gakuen Elementary School



学ぶ



遊ぶ

「学び」と「遊び」の翼は成長の原動力。
より遠くへ力強く飛ぶために。

独立自覚

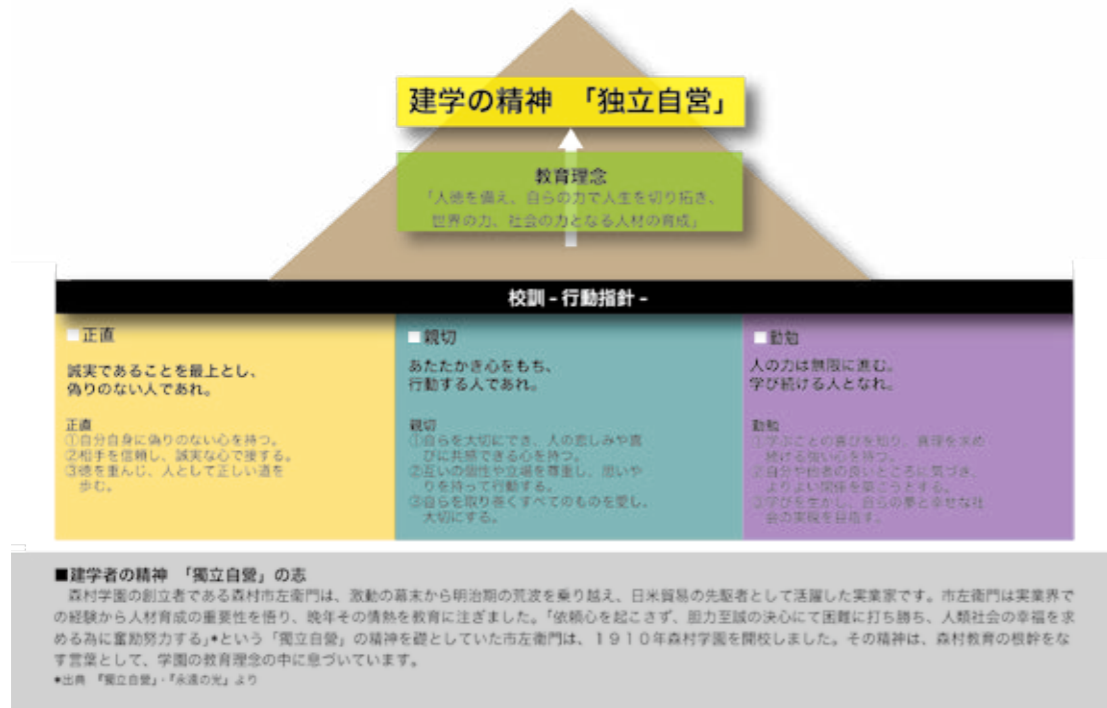


創立者森村市左衛門と建学の精神について

森村学園は1910年、森村市左衛門によって、東京都高輪の地に創立されました。森村市左衛門は、明治末期に「ノリタケチャイナ」と呼ばれる美しい陶磁器を作り、日本の海外貿易の礎を築いた実業家です。世界的視野に立って国際性を追求し、良き企業市民として社会と共に発展しようとする自主独立の精神は、セラミクス産業界のリーディング企業であるノリタケ、日本ガイシ、TOTO、森村商事などの経営ビジョンの中に今も息づいています。市左衛門は、次世代を担う人材育成の必要性を痛感し、慶應義塾大学や早稲田大学、日本女子大学、北里研究所を始めとする多くの教育事業に惜しみない援助を続けました。晩年、「花をつくるより人をつくろう」の決意のもと、自宅の庭を開放し、自らの理想とする幼稚園と小学校を作りました。それが森村学園の始まりです。

1978年、高輪から全学移転を行い、以来、現在の地で一貫校としての歴史を刻んできました。「独立自覚」の建学の精神に基づき、バランスの取れた人間形成を目指して、幼稚園から高校までの一貫教育を行っています。創立100年余を経た今、教育の軸足をしっかり持ちながら、時代の要請に応えるべく、学園はさらに前進し続けていきます。

時代を見据える森村学園 ～これまでの100年とこれからの100年～



社会がどんなに厳しい挑戦の時代を迎えても、
高い志をもって未来を切り拓ける
「森村っ子」でいてほしい。

そして、自らの幸せの先に、世の中の多くの
人々の幸せを重ねられる人になってほしい。



森村学園初等部
「森村学園の歴史」動画



校訓「正直・親切・勤勉」

実業界の経験から見出した創立者の人生哲学から生まれた言葉。学園を築いた沢山の森村っ子たちの心の道しるべとなっています。

2020年、日本の学校教育がまさに大きな転換期を迎えようとしていたその年、新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るい、全国一斉の臨時休校という未曾有の出来事が起きました。児童生徒の学びの保障をどうするのか、誰も経験したことがない事態に学校現場は直面したのです。本校はICT教育の持つ可能性に早くから着眼し、既に教育活動に取り入れていたため、オンライン授業を行って学びを継続することができたことは幸いでした。しかし、新型コロナウイルス感染症によって、私たちの生活スタイルや物事に対する考え方は、まるで分水嶺のような変化を遂げる事となりました。

時に教育分野で話題になる言葉の一つに「CUN課題」という言葉があります。CUNとは「Complex, Unfamiliar and Non routine」の略で、「どこから手をつけてよいか、その糸口さえ見えない課題」という意味です。まさにここ数年の新型コロナウイルス感染拡大は、人類のCUN課題の一つとあってよいでしょう。しかし、感染が拡大する中で様々な困難に直面しながらも、人々は既存の価値観を超えて、新しい気づきの中から解決への糸口を見つけていきました。大量生産型のモノづくりが社会の中心だった時代は、集団で一律に知識を身につけさせることが有効でした。しかし、今は既存の知識にとらわれない発想力を持つ人たちが、社会の仕組みを新しく創りだしている時代です。「次の時代に活躍できる人を育成する」のが教育の命題だとすれば、学びのあり方も時代の要請に応じて柔軟に変えていく必要があるのだと思います。しかしそれは、「人としてのあり方そのものに重きをおく」というゆるぎのない、芯のある教育活動の上に成り立つものなのです。

**変わりゆく時代の中でも通用する力とは何か。
それは、自立した人として、
伝統や文化に立脚し、蓄えた知識を礎に、
自ら問いを立てて解決を目指す力。
他者と協働しながら新たな価値を生み出していく力。**

これからの子どもたちが生きる社会は、間違いなくCUN課題にあふれた社会です。学園が目指す、バランスの取れた人間形成によって培われた力は、世界情勢の変化、教育改革が進行する激動の時代だからこそ、生きてくるはずで

全国一斉休校後、学校が再開し、制限の講じられた学習活動を行う中で炙り出されたのは、「本当の学びとは何か」ということでした。たとえオンライン授業のための環境が十分に整っていたとしても、子どもたちそれぞれが「学ぶこと」に意義を見出し、心躍るような好奇心や成長しようとするエネルギーを自分の中に持っていなければ、それはただの箱ものに過ぎないということです。今まで以上に一人ひとりの子どもの中にある、可能性の宝箱に働きかけてみたいと考えています。そのために求められる学校の在り方を不断に探究する努力が、我々の使命です。

森村学園初等部校長
田川 信之



森村学園の教育の3つの柱

—社会のグローバル化が求める「ことばの力」とICT教育—

森村学園では、次世代に求められる能力の一つとして、ことばの力とICTに関する能力を大切にしています。ことばの力は、新たな知識や技能を活用し、課題を探究するための「論理的思考力・判断力・表現力」の基盤となるものです。

「言語技術教育(ランゲージ・アーツ)」

言語技術とは、欧米諸国で実践されている世界標準の母語教育であり、体系的にことばの学習を行うプログラムです。2012年より中高等部で開始され、初等部は2018年からつくば言語技術研究所の支援を受け、行っています。批判的思考(絵やテキストの分析)や、論理的思考(多面的に物事を見る技術)、情報伝達の力(説明・描写・報告)等を通して、「ことば」について深く、将来にわたる社会活動において必要となるスキルにつなげていきます。



言語技術「一文作り」の授業です。3つの単語に主語と助詞・助動詞などを入れて文を作成し、文の形の基本を学びます。子どもたちの豊かな発想が、いくつもの文を生みだします。

「ICT教育」

校内にメディアルームを設置し、専門教員を配置して、1人一台のiPadを持ちながら、発達段階に合わせて機器の使い方やメディアリテラシーを学びます。iPadはICTの授業だけでなく、「ノートと同じ」文房具の一つといったレベルで各教科で使用しています。メディアルームにスタジオ機能を備え、児童委員会等で児童自らがZOOM校内放送を行なうなど、活用しています。ICTの授業を通して学んだスキルや知識が実社会と繋がるよう、よりクリエイティブな学校生活となるよう、ICT教育を推進しています。



一歩先の未来の教育を実現すべく、初等部のICT担当はApple社に認定を受けたApple Distinguished Educator (ADE)です。ADEは学習環境とテクノロジーの統合を実現するエキスパートであり、教育界の革新を推進するためApple社と密接に協力しています。

「英語教育」

海外貿易の先駆者であった創立者の意志を汲み、開校当初より英語教育を行ってきました。現在は英国の公的機関BRITISH COUNCILの講師3名による、森村オリジナルカリキュラムの授業を1年生より実施。4年生以上はクラスを二つに分け、少人数による授業に。2019年夏より、5年生以上の希望者にAustralia Brisbaneでの夏期短期研修プログラムを実施しています。



Australia Brisbaneでの英語夏期短期研修プログラム。ホームステイをしながら、現地の学校へ通う体験も行います。担当教員が引率するので、初めて海外に行く児童でも安心して参加できます。



森村学園初等部
「学校紹介」動画

初等部の教育目標

森村学園初等部のモットーは、「しっかり学び、とことん遊べ」。子ども時代は将来の可能性を広げるための大切な基礎づくりです。新しい発想や考え方を生み出すための「学び」はもちろんのこと、「遊び」も好奇心や探究心を育み、社会性を養う場として大切です。人を思いやり、自分で考え、自ら伸びる心が育つように、綿密な指導計画や教材研究を重ね、私たちは、子どもたち一人ひとりをしっかり見つめながら、充実した学校生活をサポートしています。

美しいものを愛し、自然を大切にする子に育てよう

困難を乗り越える強い心を持つ子に育てよう

友だちと仲よくでき、思いやりのある子に育てよう

善悪のけじめをつけ、進んで善い行いをする子に育てよう

基礎学力をしっかりと身につけ、向上心を持つ子に育てよう

体を鍛え、自分自身を大切にしている子に育てよう



低学年

学校生活をスタートしたばかりの低学年。学校生活の楽しさを実感することが「知」への探求につながります。各々が主役として学習や遊びを楽しめるよう、低学年はダブル担任制を取り入れ、担任の他に助手の教員が付き、あらゆる場面でサポートします。



高学年

委員会やクラブ活動が始まり、下級生との触れ合いを通して思いやりを育みます。学習では、発展的な課題に挑戦。自ら答えを見出す喜びを実感します。校庭や体育館などの広い空間で繰り広げる遊びもダイナミックになります。自我が目覚め、大きく変化を遂げる心に向き合いながら、自律した人としての一歩を踏み出します。5年生からはスキー学校が行われます。



中学年

仲間意識が芽生え、自己の考えを持つようになります。学習では、次第に具体的な思考から抽象的な思考へと移行していきます。遊びの中心は工夫次第で多様な遊び方ができる森。林間学校も3年生から始まります。自然体験を主にした体験学習を通じ、人とつながることの大切さを学びます。

教育目標

美しいものを愛し、自然を大切に育てよう



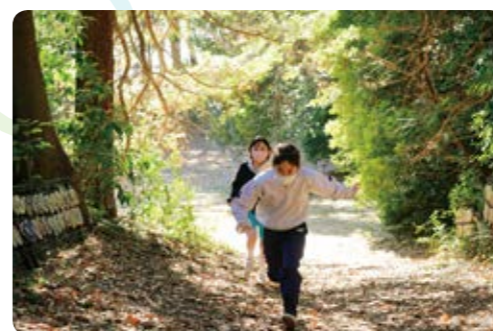
森村学園の敷地は、総面積81,587m²。初等部校舎は森に隣接した場所に配し、自然とのふれあいを身近に感じながら学べるようなつくりになっています。森に囲まれたミニランドで遊び、樹木や野鳥・昆虫とふれあう日々。大切な子ども時代に出会う発見や感動は何よりも大きな財産となるでしょう。



教室前の中庭は低学年専用。アスレチックがみんな大好き。



子ども達に大人気のジャンボ滑り台。「こわーい！でもおもしろーい！」達成感を感じることの出来る遊びの空間です。



時川 郁夫 教頭

1
「森村っ子」の
こんなエピソード

日本の大都市では、子ども一人当たりの公園の広さはたったの0.5m²だとか。森村学園は自然に恵まれた学校です。顕微鏡で観察する葉脈の素材はもちろん学園産。春には森で野鳥の巣作りの様子も観察できます。「珍しい模様の鳥を見つけた！」と子どもたちに呼ばれて双眼鏡を片手に森へ行くこともあります。森村っ子たちの、自然に対しての素晴らしいアンテナを、これからも大切に育みたいと思います。

教育目標

困難を乗り越える強い心を持つ子に育てよう
友だちと仲よくでき、思いやりのある子に育てよう
善悪のけじめをつけ、進んで善い行いをする子に育てよう

幼稚園児から高校生まで幅広い年齢構成の森村学園。幼稚園年長組と初等部1年生との交流や、初等部生の中高部活体験等、異学年交流の機会は一貫校ならではの。人間関係の形成能力をのばし、また幼初中高の滑らかな接続による安定した学校生活を目指します。6年生は、学習面や生活面に問題がない場合、初等部校長の推薦という形で中等部へ内部進学します。

初等部1年生と幼稚園年長組との交流会。



初等部5年生対象に開かれる「先輩が語る会」。中等部生の言葉に少しずつ中学への意識が高まります。



いつもは幼い1年生の顔がちよっぴりお兄さん、お姉さんに。



思いやりの心や自律の心を育みます。



初等部の環境支援委員会が、中高生徒会と協力して、地震の被災者支援のために募金活動を行いました。



峰岡 正裕 教諭

2
「森村っ子」の
こんなエピソード

初等部では、一人ひとりの作品作りだけでなく、グループごとの共同制作にも取り組んでいます。図画工作は、個人の発想やイメージをもとにした表現活動であり、異なった個性が集まってひとつの作品に仕上げる共同制作は難しいと言われています。自分とは異なる感じ方や表現に触れることは、自分の表現を客観的にみつめ、また大切にすることにもつながります。森村っ子の作る共同制作の作品はとてもダイナミック。「もっと作りたい!」というエネルギーは色や形となって生き生きとした表現へと広がっていきます。 ※ 学園創設の流れを汲み、学校内に焼成ができる窯を設置。全学年で陶芸作品に取り組みます。



教育目標

基礎学力をしっかりと身につけ、 向上心を持つ子に育てよう

今、社会に生きる人としての基本的な能力が、改めて求められる時代です。主体的に学ぶ「知」の基礎力、論理的に考え創造する力、人の気持ちや本物を感じる心。これらを立体的に育むことに力を注いでいます。

15,000冊もの本をそろえた図書室をはじめ、理科室、図工室、体育館、屋内プールなど、密度の濃い授業を展開できる施設も充実しています。近年、内装のリニューアル工事を行い、全クラスICT設備を整備し、照明もLEDに変更しました。ICT教育のためのメディアルームが作られ、ICT専門の教員による授業が行われています。また、3年生以上の希望者への放課後の補習や、5・6年生の希望者のための長期休暇中の学習会も行っています。



森村学園初等部
「リモート学習の様子」動画

ICT設備とオンライン学習について

新型コロナウイルス感染拡大による、2020年3月の全国一斉休校は記憶に新しいところですが、本校はコロナ禍以前よりICT教育を推進していたことが幸いし、オンライン学習への対応が迅速に行われました。2023年現在、感染対策を行いながらの平常に近い授業が行われています。児童は日常的にzoom、ロイノートスクール[※]、Google classroomをはじめとしたアプリで、担任や専科からの連絡、課題の提出など、学校生活のさまざまな場面でiPadを使って学習をしています。

ICT授業のためのメディアルームには86インチ大型電子黒板を2機設置、スタジオ機能も備えられています。児童のiPadは3年以上は個人所有とし、毎日家庭に持ち帰って学習に使っています。日本の教育機関としては初めて「Jamf School」というMDMシステムを使って、児童の所有するiPad内のアプリのアップデートを始め、セキュリティについても適切に設定し、リモート管理を行なっています。1、2年生は学校備え付けのiPadを授業時に貸出という形で使用しています。

※ 教室内でインターネットを使って学習支援を行うためのプログラム・システム・アプリのこと。双方向のやりとりが可能



国語

「話す・聞く」「書く」「読む」の3つの領域を通じて、国語を適切に表現し、理解する能力を伸ばします。音読などによって、音声による表現の奥深さを感じられるよう導き、作品の理解につなげていきます。



算数

決まった解き方で正解を導き出すだけでなく、「考え方」についても深く学習し、「数・量・形」に対する柔軟な感覚をじっくり養います。3年生ではチームティーチング、4年生以上は二分割授業を行い、「習熟」と「発展」の両面での充実を目指します。



理科

創立時から「自然科」という独自の教科を設置、観察を中心とした理科教育を行ってきました。いまも学園の豊かな自然や、所蔵している標本、充実した理科設備を使って、子どもたちが自らの手で観察し、実験を通して理解を深めることを大切にしています。



社会

自分を含め、様々な地域の人々が、各々の歴史や環境のもとでどのように暮らしているかを学び、世界の平和や未来を考える教科です。社会生活に関する知識だけでなく、それらを活用し、課題について考え、表現する力を伸ばしていくことに重点をおいています。



道徳

倫理観が問われるのは、多くの場合「正解」が1つに決まらない場面。答えるべき道徳的な「正解」が透けて見えるという授業展開ではなく、教師も子どもたちと共に考え、悩み、気持ちが「揺れる」経験の中に、自分なりの答えを見出せることを目指します。



委員会

12の委員会があり、5・6年生は必ずどれかの委員会に所属します。委員会活動を通して学校の一員としての自覚を持ち、友達と協力しながら学校生活の充実と向上を目指して、話し合いをもとに活動を行います。



音楽

人は、音楽によって、喜びや悲しみなど、己の心を表現してきました。音楽を言葉に代わる表現の手段、感情を盛る器として捉え、表現することの喜びをたくさん感じられるよう、発達段階に応じた音楽活動を行います。



体育

球技、体操等、発達段階に応じた様々な種目に取り組みます。運動技術の向上だけでなく、自らすすんで健康な身体を作ろうとする姿勢を培うことも大切にしています。5月末から11月末にかけて、週1時間水泳学習を行います。



図工

子どもの自由な発想を大切にされた造形活動を行っています。様々な素材に触れ、多様な表現力を身につける事により、豊かな想像力と個性を育みます。秋には初等部体育館で展覧会が開かれます。創作への想いがつまった作品が並び、まるで小さな美術館のようです。



家庭

家庭生活への関心を高め、よりよい生活を工夫できるようにすることがねらいです。生活の中の知恵や科学、人々の思いに気づくことは、家庭生活への考えを深めていきます。調理や被服等の実習では、生活の主体者として様々な生活の技術を学びます。



英語

低学年は週1時間、3年生以上は週2時間、4年生以上は二分割授業を行います。英語に慣れ親しむことで、ことばや文化への気づきを促し、日本語のみでコミュニケーションしていた時にはなかった、新しいことばの世界が生まれてきます。



クラブ

5、6年生は週に1回行っています。運動系と文化系のクラブが合わせて13あり、子どもたちはそれぞれ興味を持ったクラブに所属します。学年を越えた交流を通してチームワークを高め、自発的、自立的に活動が行えるよう導きます。

総合学習で探究心を育む

“知っている”から“できるようになる”へ。—実体験から学ぶことの大切さ—
 2003年OECDが「コンピテンシー」という言葉で、世界の子どもたちに求める力を3つのカテゴリー※に定義しました。これらの力は、机上の学習だけではなく実体験を通して育まれていきます。初等部の「総合」の時間のテーマは、「自然」「社会」「人」。教科の枠を超え、生き生きとした学習の場を創生します。低・中学年では幼稚園年長組も含めた異学年交流や、老人ホームへの訪問等、自分とは異なる立場の人との関わりを体験。高学年ではクラスでテーマを決めるところからスタートします。

※「言語や知識、技術を活用する力」「多様な集団による人間関係形成能力」「自律的に行動する能力」



4年生は総合の時間に学年単位で「ファッションロスのない世界を目指して」というテーマに取り組みました。株式会社アダストリアと共同して洋服のリサイクル活動(Play Cycle活動)を行い、多くの学年から協力を得て、服のリサイクル活動を実社会とのつながりの中で体験しました。

特別養護老人ホームへの訪問。自分と年齢も立場も異なる方との交流を通して、社会の一員としての自覚を促します。



命の尊さや自分自身、そして周りの人を愛することの大切さを感じられるよう、心の琴線にふれる体験型の授業を行っています。助産師をお招きして、赤ちゃんの大きさや重さを再現したお人形を使って体験しました。

環境に配慮した製品や環境に関する最先端の技術を集めた展示会「エコプロ」を見学。産官学民それぞれの取り組みなどが展示され、自分たちが担うであろう未来の予想図を見ることが出来ます。技術革新に思いをかける人々の息づかいを感じ取ってほしいと願っています。



不破 花純 教諭

“森村っ子”の
こんなエピソード

総合の時間にクラスで決めたテーマを掘り下げ、映像作品を制作し、Panasonic主催の映像コンテストに継続して参加しています。インタビューや取材を通じて多くの人からたくさんの刺激をうけたり、時にクラスのチームワークを確かめ合ったり、制作の過程で貴重な経験ができました。「伝える」ことは受け手となる相手がいること。今まで自分中心になりがちだった一人ひとりの心の「セカイカメラ」は、映像作品の制作が終わるころ、見方を自在に変えられるレンズへと成長しています。

教育目標

体を鍛え、自分自身を大切に育てよう

健全で豊かな食生活は人が生きていくために大切です。本校では管理栄養士と連携して食育に取り組み、発達段階に応じた活動を通じて、心を込めて「いただきます」を言うことのできる心を育てます。



完全自校式の給食です。工夫された献立に基づき、吟味した素材を使って調理されています。メニューの半分は和食です。好き嫌いのあるお子さんについても、少しずつ食べられるよう導きます。



給食の準備も全部自分たちで行います。重い食缶や飲み物も協力して運びます。



牛の肉を解体し、「食育」についてのお話を聞く大切な授業です。子どもたちは自分が命をいただいて生きていることを実感します。



宗像 優衣 教諭

「森村っ子」の 4 こんなエピソード

「先生、あのね」「先生、遊ぼう！」低学年の子どもたちは元気いっぱい。笑ったり、怒ったり、泣いたり、いろいろな表情をする子どもたちに、私自身、新しい発見の連続です。子どもの自己表現の土台となるのは感情。学校で自分の気持ちを素直に出せるように、できるだけ気持ちを受け止め、温かい学級作りを心がけています。「先生、」と呼びかけるつもりが思わず「お母さん、」って呼んでしまったりしている、そんな森村っ子が私は大好きです。



新型コロナ感染拡大防止について

保護者も含めた健康観察を毎日行い、登校時に玄関でサーモカメラによる検温を行っています。各教室には高性能の大型空気清浄機とサーキュレーターを設置し、換気に努めています。教室内は適切な距離をとった座席配置をし、密を避けることを基本として、国や県から出される学習活動の指針に従い、学習方法を工夫して行っています。



すべては 子どもたちの心の財産に

出会いにときめく春、成長と冒険の夏、自然に親しむ秋、表現と創造の冬。四季折々の自然と共に学校生活を彩る年間行事は子どもたちにとって大切な時間です。

スキー学校

1月



2月

学芸会
卒業式



3月

12月
展覧会

12月



11月

音楽会



10月

9月



8月

林間学校



7月



6月

遠足



5月

運動会



4月

入学式



森村学園初等部
「公開行事申し込み」

